佐渡を世界遺産に

世界文化遺産登録に向けて

佐渡の金銀山史を彩る人々

明治時代の近代化に携わった人々

○明治期の近代化

明治2年（1869）に相川金銀山が官営佐渡鉱山となると、外国人技術者を招いて西欧技術の導入を図り、近代的な施設・設備が整えられていきました。その後、岩手県の釜石製鉄所の建設等で実績のあった大島高任（おおしまたかとう）を鉱山局長に迎えた佐渡鉱山は、更なる近代化が図られ、近代鉱山としての概容を整えていきました。

○大島高任（おおしまたかとう）（1826～1901）

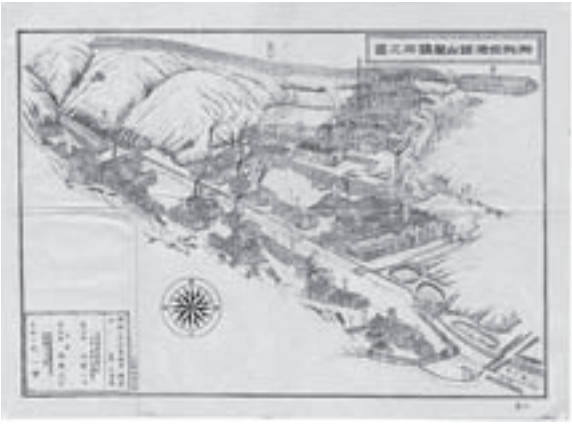
近代鉱業技術の先覚者である大島高任は、文政9年（1826）、現在の岩手県に生まれ、医学修業のかたわら、西洋の兵法・砲術・採鉱・製錬を学び、明治4年（1871）には西欧の鉱業を視察しています。同18年（1885）、初代佐渡鉱山局長として赴任すると、道遊の割戸の採鉱、竪坑（たてこう）の開削、製鉱場の建設、大間港の整備など、佐渡鉱山の近代化を進め、金銀産出量を増大させたほか、同20年（1887）には久しく途絶えていた鉱山祭りを復活させました。明治22年（1889）佐渡鉱山の宮内省（くないしょう）移管の際に鉱山局長を退任しました。道遊の割戸の麓には、鉱山の近代化に尽力した功績をたたえ、大島の名が付けられた高任神社が残されています。

高任神社と道遊の割戸

○渡辺渡（わたなべわたる）（1857～1919）

安政4年（1857）、現在の長崎県に生まれた渡辺渡は、大学南校（東京大学の前身）に入学して採鉱冶金（さいこうやきん）学を学び、明治15年（1882）ドイツの鉱山学校に留学、イギリス・ベルギーの鉱山を視察し、帰国後に東京帝国大学教授となりました。明治20年（1887）に佐渡鉱山局技師として赴任し、主として製錬技術を担当しました。同22年（1889）、佐渡鉱山が宮内省に移管され、御料局佐渡支庁（ごりょうきょくさどしちょう）となると、支庁長となって、大島高任の事業を受け継ぎ、同23年（1890）鉱山学校開校と同時に校長として技術者の育成にあたりました。明治29年（1896）、佐渡鉱山が三菱合資会社へ払下げとなると職を退任し、福岡県の官営八幡製鉄所の整備に貢献しています。

明治時代の鉱山祭り



「御料佐渡鉱山製鉱所之図」（明治23年・現在の北沢地区）

◆教育委員会　世界遺産・文化振興課　☎27―4170

金GOLD 黄金の国ジパングと佐渡金銀山展

新潟県立万代島美術館で「金GOLD黄金の国ジパングと佐渡金銀山展」が開催されています。

金は、古代から腐食しない金属として装飾品や貨幣に利用されてきました。現代においても美術工芸品として使用されるのみならず、情報機器など工業製品の部品としても用いられています。この展覧会では、金を用いた様々な作品とともに、金鉱石や砂金といった金そのものも展示します。また、新潟県と佐渡市が世界遺産登録に取り組んでいる、かつて日本一の金産出量を誇った佐渡金銀山の歴史を、資料やパネルにより紹介します。

開催期間　開催中　4月19日(日)まで

開館時間　午前10時～午後6時

会　場　新潟県立万代島美術館（朱鷺メッセ内）

観覧料　一般1100円、大学・高校生600円、中学生以下無料※前売券（一般のみ・島内各プレイガイドで販売）900円

なお、市役所本庁・各支所にチラシ（当日観覧料100円割引券付）がありますので、ご自由にお持ちください。

お問い合わせ　新潟県教育庁文化行政課　世界遺産登録推進室　☎025-280-5726